



▲ 相模原市緑の協会北公園

日本アジサイ協会

THE JOURNAL OF THE NIPPON HYDRANGEA ASSOCIATION

第14号 2005.05.

あじさい

アジサイを訪ねて(第8回) ムラサキヘンゲ



写真:大友 三夫 文:池田 正弘

紫変化 (ムラサキヘンゲ)

アジサイの花の最大の特徴は花色の変化。ヤエ・テマリと続々と名花が発見され驚嘆される中、いずれは原点回帰の時が来ると期待の花。採取当初、紫、青、紅の花形のよく似たそれぞれに便宜、変化の名を付け育成。そのままムラサキヘンゲが通り名となった。華やかな正開咲きで小花が着く。一関観光協会発行アジサイ図鑑の故山本前会長収録の 239 ベニヘンゲは同一種か。鳥取伯耆大山産。

Contents

- | | |
|-----------------|-------|
| 2. 南国のアジサイ園 | 藤井 清 |
| 4. 木沢の光 三様 | 藤井 清 |
| 5. 梅雨の花 あじさい | 山本 武臣 |
| 5. クレナイの発見者について | 秋田 宏 |
| 6. アジサイおちこち | |
| 9. 総会案内 | |
| 10. イベント情報 | |
| 11. 故塚本洋太郎先生を悼む | |
| 11. 事務局便り | |

第14号 あじさい

2005年5月発行

発行 日本アジサイ協会
事務局 〒173-0037 東京都板橋区小茂根 5-3-11 杉本誉晃 方

日本アジサイ協会事務局

TEL 03-3956-8423 FAX 03-3530-7707

東京三菱銀行 荏田支店 口座番号 普通 0481343

ホームページ

<http://www9.ocn.ne.jp/~ajisai/>

南国のアジサイ園

副会長 藤井 清

新しく入会された沖縄市の仲村洋子さんに“よへなあじさい園”のことについて知りたくて連絡してみた。

かねてから南西諸島のアジサイ類のことに興味をもっていたが、実態については不明の点が多々あった。

実の所、あじさい園のことはさておいて沖縄でのアジサイ類の自生の実態を知りたかったのだが、送られてきた写真・資料を拝見して、しばし言葉もなかった。

プリント上に展開した青色の鮮やかさ、かつて見たこともない青色の世界には驚嘆した。フィルムの写真ではアジサイの花の青色の発色が不満足が多く、デジカメのプリントでは忠実に再現することができるが、それでもこのあじさい園の青色のアジサイの発色にはなにかの謎があるように思え、スポットをあてて検索してみることにした。

まず、(1)アジサイの種類 (2)あじさい園の環境 (3)土質 (4)施肥 (5)灌水 (6)開花期間などに分けて検証してみることにする。

(1)アジサイの種類

写真を見た当初はヒメアジサイかと思ったが送られて来た苗をみて改良種(西洋アジサイ)であることが推察できた。最初の苗の入手経路ははっきりしないが、約30年前であったということで恐らく沖縄海洋博覧会(昭和50年)あたりで輸入されたものか、戦前から定着していたものか、その点は定かでない。

西洋アジサイが大量に導入されたのは戦後のことであり、国内でそれらのアジサイが注目され商品化されたのはその後のことで、育種に関しては程遠くもっぱら西洋アジサイの天下であった。

1978年(昭和58年)ガーデンライフ所載の浜松フラワーパーク(昭和5年開設)でのアジサイ保存園の設置は本邦では初めてのものであり、

当時の静岡県有用植物園や河津町役場が応援をされていたといわれ、当時は一般的なものでなく限られた範囲内で鑑賞・研究されていたものと、思われる。

同紙面には、約35種の西洋アジサイの品種名があげられ(古里和夫氏記)、その中にエンジアンダム・ブルーキングなどの青系の種類がある。エンジアンダムは紫色に傾き、よへなあじさい園のアジサイはブルーキングの類いではなかるうか。

また、紙面の続きにはカメラマン・塚本タケシ撮影の長崎・オルト邸のライトブルーのアジサイが花の形、草丈などから推して同一の種類ではないかと思われる。(写真参照)

(2)環境について

このアジサイ園は山地の中の北に面した斜面にあって、半ば窪地の状態にあり、みかん園に饒平名ウトさんが30数年前からコツコツと増殖したもので、ヘゴの木、パパイヤなど南国の樹木と共生、赤いセンネン木がアクセントになり、野生・園芸種のノボタンが咲いて他所では見られない特有のアジサイ園である。

(3)土質について

高温多雨の地帯では、土壌中の珪酸類が洗い流されて鉄・アルミニウム化合物が残され赤土が残る(ラテライト化作用という)南西諸島の砂糖キビ畑に赤土が多いのもこのためといわれている。粘性はないが乾燥すると団粒化して固まり水分を素早く吸収する。従って根の伸長を助け樹勢がつくという結果になると考えられる。(写真参照)

(4)肥料について

このアジサイ園では主に天然の肥料を使用している。主に油粕、乾燥牛フン(現地産の草類が主で糞は含まれない)を定期的に施肥、追肥として液肥を使用することもある。

(5)灌水について

散水施設があり状況により灌水する。

(6)開花時期

冬期は4・5℃になることがあるが、大体20℃近くあり開花は5月中旬から6月中旬頃まで、特に朝夕、曇天の時には青色が冴える。また、夕映えのとき、赤と青色のコントラストが素晴らしい一時がある。

将来、ヤマアジサイ、外国種などを植栽していけば開花の範囲を広げられるものと計画しているようである。

以上、私なりに分析してみたが、よへなあじさい園はアジサイにとっては好条件の地に展開した南国特有のアジサイ園であると思う。

わが国でのアジサイの改良については華々しい成果があり、より美しい種類が次々に発表されてまことに喜ばしい限りである。

欧米での改良種は主に路地用として改良された種類が多く、多花性で花房の大きいてまり花が好まれるが、レースキャップ型の優秀な品種もあり、最近、ヤマアジサイを導入して新しい種類の作出に移っている傾向が感じられる。

これらの改良種の特徴は丈夫な枝にあり、大きな花房を支える力を持っていることだ。

枝の伸長を抑えるには日照に影響されることが多いが、それにはアジサイの種類、植栽地の条件にもよることが多い。

各地にアジサイ園があるが地方性がないと観客の動員数も減少する。加えて維持管理を怠ると衰微の道をたどる結果に終わる。



▲ よへなあじさい園



▲ 送られてきた苗の表土(pH約6)。赤土(ラテライト)の中の根の状態。

(2004年7月24日 撮影)



▲ 長崎 オルト邸(ガーデンライフ所載)

木沢の光 三様

副会長 藤井 清

四国のヤマアジサイとして“木沢の光”が登場して数年、はじめ乙女の舞と称して販売されていたが、淡路の花博に出展の際、発見者久保光徳氏の要望で“木沢の光”に改めた。

私も挿し苗を頂き育成したが、なかなか思うようにはいかず苦勞の連続であった。

それというのも四国の赤花の育成は剣山八重でその栽培の難しさを知っているの、木沢の光も慎重に扱った。

剣山八重は赤花であった。挿し木して増殖を試みたが当初活着率は非常に悪く、残った苗を繰り返して挿し木、現在の剣山八重に作り栽培を容易にした。これとて元の赤花にもどすには年月がかかるものと思う。

木沢の光は生育が遅いので大株になりにくく、枝が細いので寒気に弱く、寒冷地ではある程度の保温が望ましい。

私方ではようやく弱酸性土壌になれて青い花を着けるまでになった。

花は最初白く咲き次第に弁の外側から中程まで青く発色、最盛期をすぎると青色は消えて白色になり次第に淡いグリーン色になって終わり、両性花は脱落する。

両性花(八重花状)は赤花のときは黄色く、青く咲くと淡いグリーン色に変わる。

木沢の光を赤く、これには久保氏の用土の研究があり、自生地ならではの強みもあるが発見当初の感激がこの赤い花に秘められているような気迫が感じられる。

花を赤くは園芸的には容易であるが一般的には難しいことであり、また、それを持続することは容易なことではない。続けて研究したいと思っている。



▲ 赤花 久保氏宅 撮影 宮崎 明美



▲ 安定した青花になる。



▲ 花期の後半の緑化。

※ 毎日新聞社の好意により、平成9年梅雨期に毎日新聞に掲載された「梅雨の花 アジサイ」を連載しています。

梅雨の花アジサイ④

珍しい品種も次々発見

山本 武臣

アジサイという和名はかなり曖昧である。「私はアジサイが好きだ」といった場合、このアジサイは何を指すのだろうか。万葉集に詠まれたアジサイとはどんな花であったのか、現在、知るすべは無い。

当時、既にガクアジサイから出たテマリ花があったのかどうかも明らかでない。しかし、江戸時代以降、アジサイといえば大体は大型のテマリ花を意味していた。

松尾芭蕉にも二句アジサイの句があるが、その芭蕉がガクアジサイをアジサイと思ったかどうかは分からない。

まして、当時は一般には山アジサイやエゾアジサイはアジサイとは見られなかったという。今、アジサイといえばアジサイ属の仲間全体を指すまでになった。こうなるとアジサイの範囲はかなり広い。

伊豆や伊豆諸島原産の大型で葉に光沢のあるガクアジサイ、関東から九州までの湿度の高い山に自生する小型で葉に光沢のないヤマアジサイ、日本海側の豪雪地帯から北海道南部までに分布する葉が大きく光沢の無いエゾアジサイ。

その他、蕾が球状になるタマアジサイ、装飾

花が無く両性花だけのコアジサイ、花形が穂状になるノリウツギ、山で樹木や岩にからまるツルアジサイ、紺照木とも呼ばれる葉が小さなガクウツギ、コガクウツギ、これら日本種の他、近頃は北米原産のアルボレスケンズやカシワバアジサイ、中国、台湾種のアジサイ属まで市場に出回っている。

テマリ型、八重花、葉の斑入りなど、花形、花色も様々で、珍しい新品種も次々発見されている。

園芸家による育種も進み、アジサイの世界も多彩になってきた。アジサイは梅雨の花とのイメージが強いが、その開化時期はまちまちだ。東北地方にもアジサイの名所は増えている。

アジサイは木本植物だが、灌木で、サクラ、ウメのような幹立ちではなく、株立ちで木と草の中間のような植物だ。山の雰囲気を楽しむが都会地でも魅力ある花を楽しめる。

僅かな日本種を母種に西洋で改良された園芸種は似たものも多いがその数400、500。野生種を主体とした日本種の品種数は今では数百ある。

米国、中国種などを含めると更に数は増え、アジサイの品種数も侮れない。

クレナイの発見者について

秋田 宏

日本のアジサイ(一関観光協会発行の)図鑑P31に発見者の老人の姓名が不明とあるが、発見者の妹(吉倉立子)さんから一関観光協会にFAXがあり、兄の長野県飯田市在住の市瀬正美氏が1985年ごろ、伊那の小川路峠で発見したものであることがわかった。持ち帰り「小川路」と名づけ、庭に地植えで楽しんでいた所、飯田山草会の方が譲り受け、同会員である業者が、名を「クレナイ」と付け変え販売し、世に出たものとのこと。



アジサイおちこち

よへなあじさい園について

沖縄県 仲村 洋子

会員名簿の表紙に“よへなあじさい園”の写真を使用して頂き有り難うございました。

よへなあじさい園について大略をお知らせいたします。

◇ あじさい園の位置・特徴

沖縄県国頭郡本部町伊豆味にあり、海岸から15kmの山中で潮風の影響をほとんど受けませんが時として塩害を受けることがあります。アジサイ園は全体的に北東側の高低40mくらいの斜面にあり、もともとはみかん園であったところです。

日照時間も長く7・8時間太陽にさらされています。

◇ アジサイ園の生い立ち

白色に近い大きなアジサイは50年ほど前からあったものです。

主流のブルーのアジサイは、饒平名ウトの夫の兄(叔父)が近くの畑に植えていたものから30数年前に分けてもらいウトが挿し木して増殖、みかん畑の空地にコツコツと植えたものです。はじめは切り花として出荷していたが、出荷を止めると一斉に咲きだし、マスコミにも取り上げられて有名になり、花見客が多くなった。

年々増加する花見客に対応することが困難になり、肥料代として100円を箱にいれてもらうことにしたが、“おばあさんのあじさい園”としてテレビ・新聞で紹介され広く知られるようになった。(2001年)

園内に休憩室を作り、ミニ喫茶店を開設。

よへなあじさい園の影響で、地域の自治会やPTAが中心になり学校や公民館周辺にアジサイを植え、アジサイの里としてあじさい祭を始めた。(2002年)

東京新聞の企画として日本アジサイの名所30選に選ばれ、地元の新報・琉球日報で紹介される。日本アジサイ協会に加入する。

花見客の増加によってトイレ・駐車場を増設のために入園料200円にする。(2003年)

あじさい園の開園は大体5月15日から6月中頃までとしている。

◇ アジサイ園の規模・将来

現在、青花を主に約6000株、白花系の大輪が1割ほどある。ミカン園の空間に増殖を計画している。(2004年)

このあじさい園には他の植物としてツツジ、ノボタン、サンダンカなどが植えてあって年中何かの花が咲いている南国の花園です。

以上よへなあじさい園を紹介させて頂きましたが、会員の皆様方のお力添えを頂きより良きアジサイ園を作っていきたいと思っております。



▲ 50年ほど前からある大輪のアジサイ。

相模原麻溝公園・相模原北公園

アジサイが相模原市の花として制定されてから31年経ちます。

今では街路樹はもとより公園、広場、市民の庭先にと随所で見ることができ、梅雨時のうっとうしい季節を彩る花として欠かせないものになりました。

中でも相模原麻溝公園に170種6,000株、相模原北公園には200種10,000株のアジサイが植えられており市内外から訪れる大勢の来園者の目を楽しませています。

○アジサイフェア

今年は6月11日(土)、12日(日)の2日間、麻溝公園、北公園で開催されます。

アジサイの挿木苗の配布、アマチャの試飲会、市価より安価な苗木、花鉢の販売もあります。

麻溝会場では、管理事務所ホールにおいて各所で収集した花鉢や、アジサイボランティアの皆さんが育てた「私の一品(逸品)」を展示します。また、「園芸豆図鑑あじさい」の監修や品種の同定にご尽力頂きました故山本武臣氏の当時の原稿も併せて公開する計画もあります。

アジサイおちこち

北公園会場では、虹色の巨大なアジサイを思わせる「あじさいの丘」や少し時期は遅くなりますが雪のようなアナベルの群生を見ることが出来ます。

○アジサイボランティア

フェア開催中は両公園ともに、アジサイボランティアの皆さんが「園内のガイド」や活動を通じて培った様々な知識と経験でアジサイに関する「園芸相談」に応じます。

フェア以外では裸地になってしまった市内のグリーンベルトへアジサイの植栽をしたり、挿木づくりや公園内の植栽、剪定作業、施肥等管理の部分で甚大なご協力を頂いています。

○アクセス

相模原麻溝公園(Tel.042-777-3451)

- ・小田急線相模大野駅北口⇒女子美術大学行きバスで「総合体育館前」下車2分。
- ・JR相模原駅南口⇒相武台前駅行きバスで「総合体育館前」下車徒歩3分。
- ・東名町田インターから国道16号線八王子方面⇒鶴野森交差点左折⇒県道52号線厚木方面へ約4キロ。相模原北公園(Tel.042-779-5885)
- ・JR橋本駅、京王線橋本駅南口⇒(橋36)上大島行きバス「九沢自治会館前」下車5分。



▲ 園内ヒメアジサイ



▲ 麻溝公園ホール展示



▲ 北公園アナベルの花ガラ取り

越生町あじさい山公園

埼玉県 戸口 昭一

私は埼玉県入間郡越生町の会員の戸口です。越生町のあじさい山公園の紹介をさせていただきます。

公園は6haの山一面に15,000株のアジサイが植栽され、毎年6月中旬～7月上旬にあじさい祭りを行っています(今年は第11回目です)。

平成元年にあじさい山公園の工事がスタートし約5年で頂上まで植え、花の種類も多く綺麗に咲いてきた平成6年より地元、表原地域づくり部会が中心にあじさい祭りを企画し、平成11年より東武鉄道があじさいソークを企画し多くの観光客を呼んでくれるお陰で、毎年アップし昨年は2万人以上の人が見えました。

現在の悩みは、駐車場が少なく土日は車の長い列と……又アジサイの花の緑化病が発生し平成15年には3,000株を切りました。また現在も有り消毒も年2回していますが効果ははっきりしません(当公園にも東大の先生が来て調査していますので同じ先生かと思えます)。

交通は東上線で池袋⇒坂戸乗り換え⇒越生駅、越生駅よりバス⇒表原入り口で下車、約3キロのあじさい街道を歩いてあじさい山公園です。

3キロの街道は5,000本のアジサイの花と表原川の清流を見ながら歩く良い散歩道です。

駐車場は途中にあります。

今年の計画予定 第11回あじさい祭り

- ・越生町表原アジサイ山公園
- ・6月11日(土)～7月3日(日)
- ・入園料一人200円
- ・問合せ 越生町観光協会 Tel. 049-292-3121
- ・土日は郷土のお囃子、太鼓の演芸有

アジサイおちこち



藤と紫陽花の遊歩道

騎西城、紫陽花池、総合公園及び玉敷公園をネットワークする遊歩道(通称・あじさいロード)で、平成14年3月に完成しました。アナベル、ラジアータ、四季咲きテマリ紫陽花他、いろいろな種類のガクアジサイが植栽されています。

玉敷公園内には県指定文化財の樹齢約400年の大藤があり、藤の花の時期の4月下旬から紫陽花の時期の7月下旬まで散策を楽しめます。また、騎西町では当公園を会場に4・5月には藤祭りを、6月には紫陽花祭りを開催し、多くの観光客を集めています。



▲ 玉敷公園内のガクアジサイ



▲ アナベルと四季咲きテマリ紫陽花の遊歩道

資福寺のあじさい

宮城県 渋谷 芳崖

花の寺として四季折々の花が楽しめる。

場所 〒981-0931 仙台市青葉区北山1-13-1

Tel. 022-234-5730

花期 6月下旬頃から

本数 約1,200株 境内 8,000坪



相野あじさい園

相野あじさい園は、全国優良品種を集め昭和60年にオープンしました。現在では45種30,000株のあじさいの花で、さながらあじさいの海にいるようです。色々な花が不思議な色の変化で見る人の心を別世界へと誘います。

相野の静かな山里にとけあって、なんとも言えない花園となっています。是非、各種団体・レクリエーション・ご家族・お友達お揃いでお出かけくださいませ。

開園時期 6月初旬～7月中旬

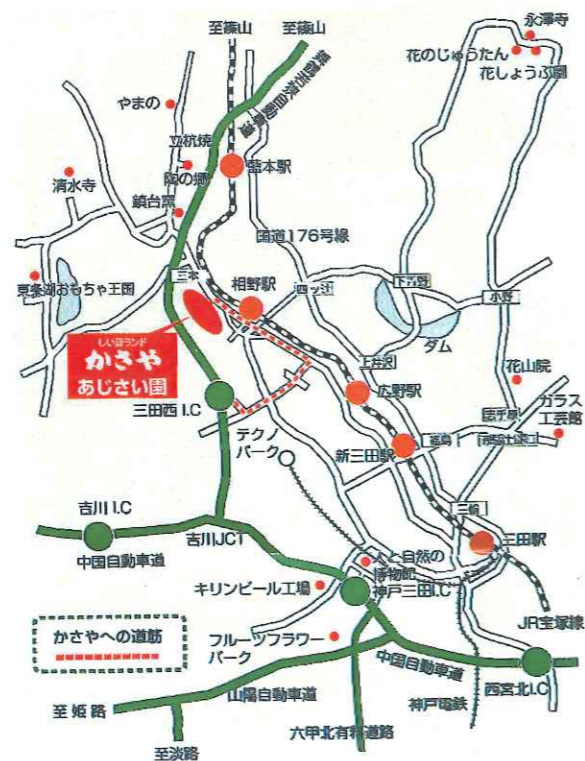
入園料 大人400円 小人200円



平成 17 年度 日本アジサイ協会総会について

今年度の当協会の総会は兵庫県三田市での開催が決まりました。詳細は以下の通りです。会員多数の参加をお待ちしております。

- 会場** 兵庫県三田市相野 あいのあじさい園 (しい茸ランド・かさや)
TEL 079-568-1301
- 期日** 2005年6月19日(日)
受付 午前11時 開会 午後1時より
- 食費** 3000円 三田肉バーベキュー 飲み物(缶ビール・ジュースなど)
食事・入場券を受付で交付
- 見所** 立杭焼(日本六古窯の一つ) 植木鉢専門の窯が有る。車で7分程度。
- 宿泊施設** 三田市内にビジネスホテルがある。会場まで車で15分くらい。
(詳細は後刻パンフレット仕上がり次第連絡)
- 交通** 新大阪より JR 福知山線で約1時間 新三田駅下車 車で15分
1時間に2本程度
大阪駅より 〃 約45分 相野駅下車 出迎えあり
(他の路線はパンフレットに記載)
(当日、三河千鳥の苗30本用意します。抽選。)



あじさいイベント情報

- * 日本最南端・おばあさんのアジサイ園**
名称 よへなあじさい園
日本あじさい名所30選(東京新聞選)
場所 沖縄県国頭郡本部町伊豆味
見頃 5月15日~6月中旬 6,000株 入園料200円
問合せ TEL 0980-47-2186
- * 花・宿・食事・陶芸・茶室・ぐるり2km 東雲の滝遊歩道**
名称 東雲の里あじさい園 4万坪 160種 10万本
場所 鹿児島県出水市上大川内2881
日時 あじさい時期無休 午前9:00~午後5:00
入園料 500円
問合せ TEL 0996-68-2133
- * アジサイのかくれ宿 自慢の棚飾り**
名称 山アジサイ展 30種 3,000鉢
場所 鹿児島県薩摩川内市隈之城町349-64
日時 5月14日~22日 見学無料
問合せ TEL 0996-25-3080 松元公正
- * アジサイ各地の名花と山野草**
名称 山アジサイと山野草展
場所 熊本動物園内花の休憩所展示室
日時 5月27日~29日
問合せ 熊本カンアオイの会 馬場健二
TEL 096-378-5558
- * 一斉に花開く圧巻の美しさ**
名称 相野あじさい園 (しい茸ランドかさや)
場所 兵庫県三田市上相野
日時 6月初旬~7月中旬 入園料 大人400円 子供200円
問合せ TEL 079-568-1301
- * みどりと花の町引佐町・ささゆりとあじさいまつり**
名称 奥山高原日本のアジサイ展 50種 70種 1万株
場所 静岡県引佐郡引佐町奥山堂ノ上1736-1
日時 5月28日~7月3日 入園料 500円
問合せ TEL 053-543-0234
- * あじさいと湯量豊富な町営温泉『南部の湯』**
名称 内船(うつぶな)公園
場所 山梨県南部町 JR身延線内船駅下車徒歩10分
2.5ヘクタール 60種2万株
日時 6月中旬~下旬 入園無料
問合せ TEL 0556-64-3111 南部町役場産業振興課
- * 緑濃き谷戸の古刹の山アジサイ**
場所 神奈川県鎌倉市長谷 光則寺
日時 五月下旬~6月下旬
問合せ TEL 0467-22-2077 光則寺
- * 全国主要名品・鉢植えアジサイの室内展示**
名称 日本の自生アジサイ展
場所 神奈川県鎌倉市岡本1081
県立フラワーセンター大船植物園
日時 5月24日~29日
問合せ TEL 0467-46-2188 フラワーセンター大船植物園
TEL 0467-32-2348 大友三夫
- * 相模原市の花アジサイ**
名称 相模原市アジサイフェア
日時 6月11・12日 アジサイ苗の配布・アマチャ試飲会
場所 麻溝公園 170種6,000株
フェア期間中アジサイボランティアの育てた「私の一品(逸品)」展、故山本武臣前会長の原稿展示有り。
北公園 200種 1万株 アジサイの丘、アナベルの群生
問合せ 麻溝公園 TEL 042-777-3451
北公園 TEL 042-779-5885
- * フジとアジサイの遊歩道**
場所 埼玉県北埼玉郡騎西町 あじさいロード
アナベル、ラジアータ、四季咲きテマリアジサイ他
日時 6月中
問合せ TEL 0480-73-1111 騎西町役場
- * アジサイ山の頂上までアジサイハイク**
名称 越生町麦原アジサイ山公園
場所 埼玉県入間郡越生町麦原 6ヘクタール 15,000株
日時 6月11日~7月3日
入園料 200円 土日は郷土芸能有り。お囃子・太鼓
問合せ 越生町観光協会 TEL 049-292-3121
- * 大島公園から巨樹「桜株」を見ながらハイキング**
名称 伊豆大島アジサイレインボーライン
場所 東京都大島町 5km 3万株
日時 6月中旬~7月中旬
問合せ TEL 04992-2-2177 大島観光協会
- * 四季折々の花が楽しめる花の寺**
名称 花の寺資福寺のあじさい
場所 仙台市青葉区北山1-13-1
日時 6月下旬から約一ヶ月 境内8千坪 1,200株
問合せ TEL 022-234-5730 資福寺
- * アジサイ品種保存園で花を見ながら森林浴**
名称 みちのくアジサイ園
場所 岩手県一関市舞川宇原沢
15ヘクタールの杉山に250種2万5千株
足腰の弱い方にカートのサポート
日時 6月25日~7月末日 あじさい祭りを開催
問合せ TEL 0191-28-2345

塚本洋太郎先生を悼む

当協会の設立時より顧問として、お世話下さいました京都大学名誉教授 塚本 洋太郎先生が、3月12日に逝去されました。

奥様よりご丁寧なご挨拶状を頂戴しました。会員の皆様に披露しますと共に、御霊の安らかならんことをお祈り申したいと存じます。

拝啓 陽春の候、皆様にはお変わりございませんでしょうか。
日頃ご無沙汰をいたしておりまして大変申し訳ございません。

さて数年来自宅において療養中の夫・洋太郎、3月12日未明他界いたしました。
家族の見守る中、安らかに静かに旅立ってゆきました。
九三歳ニケ月の生涯でした。

本来であればすぐに皆様にお知らせしなくてはならないところ、
3月13日、日本基督教団室町教会において近親者のみで葬儀をとりおこないました。
私達の我儘をどうぞお許し下さい。

洋太郎存命中は身にあまるお心遣いを頂きまして心から感謝しております。
誠にありがとうございました。

なお、御弔慰の儀は全てお断りしておりますので何とぞ私達の本意をおくみとり下さいませ。

まだまだ寒い日もあるかと存じますがくれぐれも皆様ご御身御大切にお過ごし下さいませ。

敬具

2005年3月 塚本 しげ

◎ 事務局だより

- ◇ 会報14号をお送り致します。今年度のアジサイ協会総会の案内が掲載されています。遠路また御多忙の事と存じますが皆様の参加をお待ちしています。
- ◇ アジサイの品種名でトラブルが続発しています。前々から検討はされていますが協会として方針を示す必要があります。協会登録品種、あるいは価値の高いものについては農林水産省の登録も考えられます。年度内に理事会を開催し異種同名、同種異名等の混乱を解消する対策を会員の皆様にお示ししたいと考えています。御意見をお持ちの方はファックスで事務局に7月末迄に意見をお寄せ下さい。岩佐会長より農水省登録のための特性表を預かっています。希望の方は次回会報と一緒に送ります。
- ◇ 訂正会報13号の表紙写真・文提供「矢田部元照」は誤りで正しくは「谷田部元照」です。谷田部様、会員の皆様には深くお詫び申し上げます。